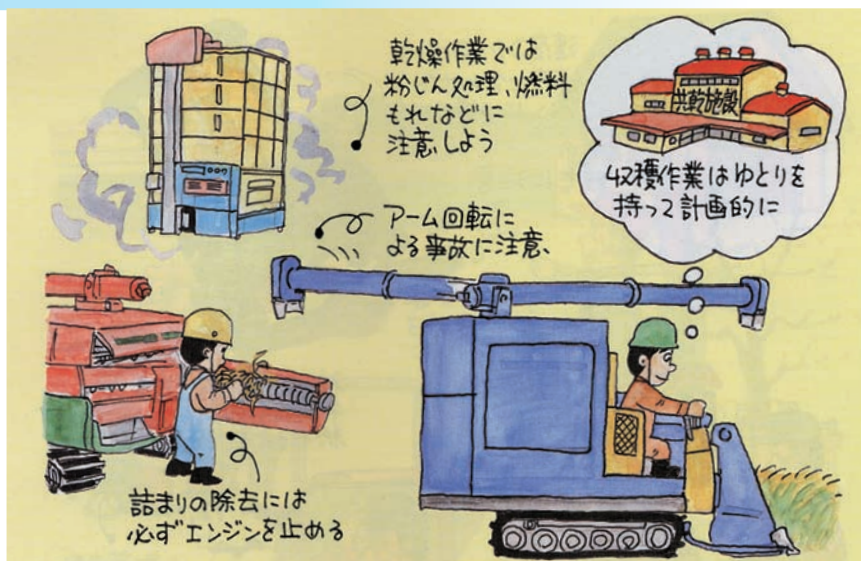


10月の農作業安全について



実りの季節です。より一層の農作業安全に心掛けてください。

- ①時間に追われた作業は事故のもとです。ゆとりを持った作業計画を立て、農業機械の使用前後の点検・整備を確実に行いましょう。
- ②稲の収穫作業で「詰まり」が発生したら、「まずエンジン停止」です。「止まっているだろう」ではなく「エンジン止めました」の確認を！
- ③グレンタンク方式のコンバインは、アーム回転による事故を起こさないよう周囲の支障物に注意しましょう。
- ④穀物乾燥機の粉塵が周辺住宅や道路交通等の支障とならないよう飛散防止の工夫をしましょう。
- ⑤進入路や段差等に十分注意し、転落・横転事故を防ぎましょう。(ヘルメットの着用や安全フレームなどの装着を！)
- ⑥一般道路を走行する際は、他の車両に十分注意しましょう。
- ⑦農作業中の災害に備え、労災保険に加入しましょう。

※労災保険は国の制度です。本町ではJAさつまに加入組合が設置されています。

【労災保険のお問い合わせ先】 さつま地域農業管理センター ☎53-3907
さつま町担い手支援室 ☎53-1111(内線2427)

がんばれ 認定農業者!! シリーズ⑤

◎ さつま町柏原

西原 敬一 さん



西原さんは、現在、梨70a、水稲550a、茶苗やスギ、ヒノキなどの山苗100aを生産されています。

以前は水稲、スギ、ヒノキなどの山苗だけを生産されていましたが、造林の低迷により、茶苗と梨の生産を始めたそうです。梨の生産は今年で18年目。品質と味にこだわった梨は、国道328号沿いの梨園となりで、西原梨園と書かれたのぼり旗を立てたテントで直売されます。

「消費者の皆さんが、美味しい梨ですねと言って、また来てくださることが一番うれしく思う時です」と話す西原さん。取材当日も、度々来られるお客様から「甘くて美味しい梨ですね」との声が聞こえてきました。

2年前に、農業大学校果樹学部を卒業された勝吾さん(息子)も就農され、今では生産から販売まで一緒になって取り組まれています。西原さんは「近い将来、息子の考えを尊重し、経営全般を任せたい」と期待を寄せていました。